

# 畑作

## 白神ねぎ



### ○長ねぎ栽培について

病害虫が発生しやすい時期となります。圃場を確認しながら適期防除に努めましょう。

※今年は積雪少なく融雪が早いため、特に注意が必要です。

### 【害虫】

タネバエ・タマネギバエ

・6月にかけて発生量が多くなります。定植時の薬効が切れる頃ですので、早期に防除を行いましょ

う。  
例) スタークル灌注であれば、定植後20日くらいで粒剤による2回目の防除が必要となります。

(害虫の発生早まっている+ねぎに薬剤が吸収されるまでの時間を考慮)

### 【発生しやすい条件】

- ・定植から25日以上経過（追加防除が遅れた）
- ・生堆肥（完熟していない）の投入
- ・ねぎの連作（残渣がすき込まれた、昨年も発生したなど）

防除対策（ネギハモグリバエ・ネギアザミウマと同時防除薬剤）

ダントツ粒剤 3～6kg/10a

### 【病害】

今後の防除目標

①6月に入ると、軟腐病・白絹病の防除時期となります。

・6月上旬 → 夏ねぎ 1回目防除

・6月下旬 → 夏ねぎ 2回目防除

秋冬ねぎ 1回目防除

②6月中旬(梅雨入り前)のべと病予防を忘れずに！

※近年は「さび病」も多発しますので要注意。

## 白神きゃべつ



### ○きゃべつ栽培について

アオムシ・コナガの発生に注意してください。

5月中旬から6月上旬にかけて、気温が上昇して

くると発生量が増えてきます。

定植時に処理した薬効も切れてきますので、早めの防除を行いましょ

5月中旬頃 → フェニックス顆粒水和剤 2,000倍液

5月下旬頃 → ジャックポット顆粒水和剤 1,000倍液

6月上旬頃 → アファーム乳剤 2,000倍液

## アスパラガス



### ○アスパラ栽培について

定植をするために畑の準備をしましょう。堆肥を1

反歩あたり2tの散布を行ないましょ

元肥は窒素成分で1反歩あたり20kgとします。

根域を確保するために高畝にし、マルチを張りましょ

露地アスパラでは、春芽収穫後に立茎肥として、窒素成分で1反歩あたり10kgの追肥を行ないましょ

## 白神みょうが



### ○みょうが栽培について

高温対策として敷きわらは厚めにしきましょ

また、根茎腐敗苗対策として5月下旬から6月上旬にかけて1回目のユニフォーム粒剤の散布をお願いしましょ

ユニフォーム粒剤の散布は雨降り前がおすすめです。なお10a当たりの散布量は、18kgです。